

ラジオニセコ「ニセコなヒト」

放送日時：2017年6月5日（月）15：30～15：50

出演者：片山 健也 氏 ニセコ町長

竹森 徹郎 氏 大丸(株) 紙・板紙第一営業部営業2課 サブマネージャー

黒滝 博 氏 鶴雅観光開発(株) 常務取締役

篠原 伸和 氏 北電総合設計(株) エネルギー部エネルギー技術室 室長

柴田 真年 氏 (公財) 北海道環境財団 専務理事

浦田 秀行 北海道経済産業局 資源エネルギー環境部長

聞き手：宮川 博之 氏 ラジオニセコ

※放送開始

(ラジオニセコ宮川氏)

ここからは「ニセコなヒト」の時間です。この「ニセコなヒト」、ニセコエリアで活躍されている方をゲストにお招きしてお届けする番組で、ニセコの今の情報、昔の話など、ニセコエリアで活躍されている方だからこその情報をお届けするコーナーなのですが、本日は、先程、全国初の取組として、ニセコ中央倉庫群旧でんぷん工場にて、J-クレジット贈呈式が行われました。全国初の取組が、ここニセコで行われたということで、本日は、それを記念して特別放送を行いたいと思います。題して「ラジオニセコは聴くだけじゃない、CO2もゼロ」お届けしてまいります。

では、本日お越しいただいておりますゲストの方を紹介してまいります。

まず初めに、J-クレジットをニセコ町に寄付されました企業様をご紹介します。

札幌より、和紙や文具、印刷用具をはじめ、事務用品、情報機器のネットワーク、オフィス家具などの取扱を行っております大丸株式会社様より、紙・板紙第一営業部営業2課サブマネージャー竹森徹郎様をお迎えしております。竹森様、よろしくお願ひいたします。

(大丸(株) 竹森サブマネージャー)

よろしくお願ひいたします。

(ラジオニセコ宮川氏)

北海道にて、上質なくつろぎの空間と時間を演出、素敵な温泉リゾートを運営しております鶴雅観光開発株式会社より、常務取締役黒滝博様にお越しいただいております。黒滝様、よろしくお願ひいたします。

(鶴雅観光開発(株) 黒滝常務)

よろしくお願ひいたします。

(ラジオニセコ宮川氏)

札幌にて社会資本整備に係る一貫した業務を行う総合建設コンサルタント北電総合設計株式会社より、エネルギー部エネルギー技術室室長篠原伸和様にお越しいただいております。篠原様、よろしくお願ひいたします。

(北電総合設計(株) 篠原室長)

よろしく願いいたします。

(ラジオニセコ宮川氏)

そして、このJ-クレジットの推進・運営を行っております北海道経済産業局より、資源エネルギー環境部部長浦田秀行様、浦田様よろしく願いいたします。

(北海道経済産業局浦田部長)

よろしく願いいたします。

(ラジオニセコ宮川氏)

そして、ラジオニセコのCO₂ゼロの証明をしていただいた北海道環境財団より、ニセコ町環境審議会委員でもある専務理事柴田真年様、お願いいたします。

((公財)北海道環境財団柴田専務)

よろしく願いいたします。

(ラジオニセコ宮川氏)

そしてJ-クレジットの寄付を受けましたニセコ町より、町長片山健也様、よろしく願いいたします。

(ニセコ町片山町長)

こんにちは。

(ラジオニセコ宮川氏)

この皆さんをお迎えして、J-クレジットとは？そして、各企業の皆様には、どのような取組を行っているかなども含め、今回の贈呈に関するお話を伺ってまいります。皆さん、よろしく願いいたします。

(全員)

よろしく願いいたします。

(ラジオニセコ宮川氏)

先程からJ-クレジットという言葉、自分も連呼している訳ですが、リスナーの皆さんは何のクレジットとと思っているのではないのでしょうか？一体、何がニセコ町に贈呈されたのかということで、北海道経済産業局浦田部長、J-クレジットとはどんなものなのか、制度も含めて教えていただけますでしょうか？

(北海道経済産業局浦田部長)

事業者や自治体の皆さんが、省エネや再生可能エネルギーの導入を進めると、地球温暖化の原因であるCO₂の排出量が削減されます。どれだけの量が削減されたのか、その削減量を国が認証しますと、削減量に応じたJ-クレジットが発行されます。削減の証明書のようなものをご理解いただければと思います。

このJ-クレジットには価値があり、取引が可能です。J-クレジットの所有者が、これを売却した場合、売却代金から、例えば省エネ設備を導入した時の費用の一部を回収するなどのメリットを享受することができます。あるいは、今回のようにJ-クレジットを地域に譲渡することで、コミュニティとの関係強化というメリットに繋がる場合もあります。

一方、地球温暖化問題の解決に貢献したい、そういう意欲はあるものの、CO₂排出削減の余地が当面限られている方、このような方は、このJ-クレジットを入手、購入することでCO₂の排出削減に貢献したことになります。

このように、J-クレジット制度とは、J-クレジットの取引を通じて、CO₂の排出削減に貢献したい人と排出削減の余地のある人を繋げることで、社会全体で効率的にCO₂の排出削減を図っていく制度であると言えます。

(ラジオニセコ宮川氏)

CO₂を削減するだけでなく、色々な人と人とが繋がっていくということですかね。寄付いただいた企業様についてもJ-クレジットの認証を受けているという訳ですね。では、各社でなぜこの制度を導入しているのか、また、どのような取組にて温室効果ガス排出量を削減しているのか？そして、どうしてニセコ町へ寄付しようと考えられたのか、教えていただこうと思います。まず、大丸株式会社竹森様、よろしいでしょうか？

(大丸(株)竹森サブマネージャー)

大丸株式会社は、様々な商品をメーカーから仕入れ、お客様へお届けする卸売業をやっております。J-クレジット制度の1つにカーボン・オフセットという取組があるのですが、これを活用することで、あらゆる商品が、エコな商品に生まれ変わります。クレジットを創出した企業様より、クレジットを購入して、それを商品にくっつけて活用して販売することで、エコな商品をどんどん増やすために当社は導入しております。カーボン・オフセットを広めたい、そういう思いで、このJ-クレジット制度に賛同して、日々営業しているといった形です。

(ラジオニセコ宮川氏)

そうなんですね。エコな商品ということなんですね。

(大丸(株)竹森サブマネージャー)

1つの事例として、セントラルP P Cという大丸株式会社のオリジナルのコピー用紙を販売しております。全てのセントラルP P Cに、北海道で生まれたJ-クレジットを購入して、くっつけてカーボン・オフセットコピー用紙として販売しております。このオリジナルなエコな商品を買っていただくほど、どんどんCO₂削減に繋がっていく、そういった流れになる商品を販売しております。

(ラジオニセコ宮川氏)

それを使うだけでCO₂削減になっていくということなんですね。なるほど。そのJ-クレジットを今回ニセコ町に寄付ということなんですが、それはどうしてなのでしょう？

(大丸(株)竹森サブマネージャー)

当社のこの取組はもう6年くらい経つんですが、ニセコ町の皆様が、環境モデル都市として高いCO₂削減の目標を掲げていることを知りまして、非常に感銘を受けまして、是非当社としてもカーボン・オフセットを通じて、少しでもニセコ町の目標達成にご協力できればという思いで、寄付をさせていただきました。

(ラジオニセコ宮川氏)

そういうことなんですね。ありがとうございます。その用紙をニセコで使うことによって、またそれも自然に優しいものになっていくということなんですね。ありがとうございます。

それでは、鶴雅観光開発株式会社黒滝様、よろしくお願いいたします。

(鶴雅観光開発(株)黒滝常務)

当社は平成21年より、鶴雅グループのCO₂削減について、ゼロ・カーボン・プロジェクトという名前を付けてスタートしました。これについては、北海道経済産業局の「省エネと環境にやさしいホテル旅館づくり」という講習会があり、この講習会を受けて目覚めた訳です。

色々当社も北海道経済産業局に指導を受けてやってきまして、我々温泉ホテルをやっていますので、温泉の高い熱があるんじゃないかというお話をいただき、温度の高い温泉を探しましたら67℃という温泉がありました。温泉をどうするかというのをエネルギーの業者を呼んで研究したら、温泉の熱で、水道水を交差させることによって水道水の温度が上がっていく訳です。

普通は給湯に使ったり、暖房に使うのですが、(その熱源を)温泉の熱だけで賄うということは、エネルギーが地中からもらった熱だけということになります。通常であれば水道水を給湯に使うということで、60℃くらいまでにするためには、重油で上げていました。ところが重油が必要ないんですね。温泉の熱だけで給湯と暖房が作れる。そうすると年間80万ℓの重油を使っていたのが、20万ℓになったんです。

(ラジオニセコ宮川氏)

そうすると60万ℓも減ったということなんですか？

(鶴雅観光開発(株)黒滝常務)

平成21年というのは、ちょうど油の値段ががんがん上がり始めた時期で、企業がCO₂だけでやるとなると非常に経費がかかりますが、(重油の節約になったので)経費の削減にもなる訳ですよ。うちがスタートしてここまで来まして、CO₂の削減も一緒にやってきましたら、今年間1,600tくらいのCO₂を削減しています。

(ラジオニセコ宮川氏)

1,600tですか？すごい。

(鶴雅観光開発(株)黒滝常務)

これも機械を入れるために、北海道経済産業局の補助金をいただいて、スタートして、今はこのゼロ・カーボン・プロジェクト、第1次からスタートし、第9次までいっています。重油だけではなく、LEDの交換もしましたし、いろんなことしました。今ニセコにあるホテル(空の抄)についてもロードヒーティングを温泉の熱でしています。

(ラジオニセコ宮川氏)

それでは本当に外からの電力や熱量をいただくということではなく、温泉の熱量だけで賄っている。それで、年間1,600tというのは大きな数字ですねえ。では、なぜJ-クレジットをニセコ町へ贈呈ということになったのでしょうか？

(鶴雅観光開発(株) 黒滝常務)

当社でニセコ町にホテル(空の抄)をスタートしましたので、是非こちらに有効に活用できる物があるということで、お話もありましたので、是非寄贈させていただきたいということにしました。今回、(ニセコ町は)環境モデル都市になっているので、当社もできる限り協力していきたいと思っています。

(ラジオニセコ宮川氏)

そういう意味では本当に環境に優しい、人にも優しいホテル経営ということで、そこにたくさんの方が遊びに来て癒やしになっていただければ、ある意味これもカーボン・オフセットになってくるんじゃないでしょうか？

(鶴雅観光開発(株) 黒滝常務)

そうですね。自然がたくさんあるので森も(CO2を)吸収しますし、ニセコは特に素晴らしい環境の場所なのではないかと思っています。

(ラジオニセコ宮川氏)

そういう考えもありますね。たくさんのお客様が来られてCO2を出しても、それを木々達が栄養に変えてくれるということですよ。なるほど。ありがとうございます。

最後に、北電総合設計株式会社篠原様、お願いできますでしょうか。

(北電総合設計(株) 篠原室長)

私ども北電総合設計は、ここ何年かクールビズやウォームビズという取組を自治体や企業など、色々なところでなされていると思いますが、私どもも当然ながらそういう活動に賛同して、日々のエネルギー使用量を削減する、あるいはCO2の排出量を削減すると、そういった取組を行っております。

一方で、温室効果ガスの排出を削減したという取組をJ-クレジット制度に登録したり、削減実績に応じてJ-クレジットを認証したりするというお手伝いをする支援機関としても活動しております。この活動は、地球温暖化防止に繋がる設備導入などを行っている道内の自治体や企業など、あちこちを訪問して「こういった制度ありますよ」ということをご紹介します。それで、この制度を利用しようということになれば、そういった制度に登録したり、J-クレジットを認証したりするといったお手伝いをさせていただいているという企業です。

(ラジオニセコ宮川氏)

そのような北電総合設計様が、どうしてニセコ町にJ-クレジットを寄付しようとなったのでしょうか？

(北電総合設計(株) 篠原室長)

いろんな自治体や企業を訪問させていただいている中で、ニセコ町が先程来皆様仰っているように、環境モデル都市ということで、これは北海道では3つしかない。そういった大変意欲的で、CO2排出削減目標を高く掲げて精力的に取り組んでいると、そういう自治体ですから、我々も何かわずかでも良いからお役に立てればなという思いで、今回寄付させていただいたと、そういう次第でございます。

(ラジオニセコ宮川氏)

すごいですねえ。皆さんの活動を聞いているとすごく感動しているのと、いろんな考え方で活動できるんだなということを改めて教えていただきました。さて皆さんがいろんな活動で温暖化対策を行っているということで、北海道だけではないかもしれませんが、特に北海道は自然資源や生態系の恵みで経済が成り立っているということもありますし、後世にこの素晴らしい自然を残すということは非常に大事なこともかもしれませんね。

北海道環境財団では、このJ-クレジットの取組に関して、その他どんな活動を行っているのか、そこを柴田さん教えていただけますでしょうか？

(公財) 北海道環境財団柴田専務)

私ども環境財団は、J-クレジットに関しては、今もお話がありましたように、CO₂をできるだけ下げてJ-クレジットを作る方と、そのJ-クレジットを利用する方と双方いる訳ですが、その間に立って上手く繋げてJ-クレジットを流通させるというお手伝いを今までしてきております。なかなか相対でJ-クレジットを使ってくれるところを探すというのは大変なので、道内ではこういった形でCO₂を下げてJ-クレジットを作ってもらっている方が多いので、その方達のクレジットを私どもがまとめてお預かりして、どさんCO₂(こ)・ポートということで、北海道経済産業局からも支援いただいて運営をしているんですが、そういうところでニーズを営業して探して、是非使っていただきたいとか、これから作りたいというご相談があった時には、北電総合設計さんと協力しながら、こういう形でJ-クレジットを作られたらいかがですか？ということをやっております。

J-クレジット、カーボン・オフセットという形で取り組まれているところは全道でも色々ありまして、ユニークなところと言うと、修学旅行で汽車に乗ったり、飛行機に乗ったりするとそれなりにCO₂を出すので、それをJ-クレジットを買って実際にはCO₂を出さない修学旅行にするという形でやられている例もありますし、あとはイベント、皆さん集まりますのでそれなりにCO₂は出てきますが、できるだけ環境に優しいイベントにしたいということであれば、このJ-クレジットを利用すると結果的にそのイベントがCO₂ゼロという形のイベントになるとか、あとは自分の会社が、できるだけ環境に優しいという企業の取組をしたいという場合は、企業ですからCO₂が出て行く格好になりますが、こういったJ-クレジットを利用してオフセットすることによって、環境に一定の貢献をしている企業だということがアピールできると、こういったいろんな形で道内では、取り組まれておりまして、生活をすると必ずCO₂は出ますので、あらゆる形でJ-クレジットを使ってオフセットできると、今後もこういった取組を我々としては進めていきたいと思っております。

(ラジオニセコ宮川氏)

ありがとうございます。本当に様々な活動をされているということで、J-クレジット、この取組、少しでもリスナーの皆さんに、おわかりいただけましたでしょうか？このようなJ-クレジットなんですけど、どんなに貴重で大事なものか、私も十分にわかりました。そのようなJ-クレジットをニセコ町は寄付していただいた訳なんですけど、片山町長、ニセコ町として今後どのような活用をしていくお考えでしょうか？よろしければ教えていただけますでしょうか？

(ニセコ町片山町長)

今回3社様からこのように貴重なJ-クレジットをいただきまして、町民皆が愛するラジ

オニセコ、これを子供達がどんどん世界に向かってPRしていく、世界に向かって、ラジオニセコも含めて、このカーボン・オフセットというものを理解いただけるようなラジオニセコのコマーシャル（以下、ジングルと言う）に子供達に参加していただくとか、いろんな活動を今考えています。まずは、ラジオニセコでこの価値を高めてもらえれば有り難いなあと思っています。

（ラジオニセコ宮川氏）

いろんな子供達のジングル作っていきたいですねえ。そして今回ラジオニセコにJ-クレジットを寄付いただきまして、これでラジオニセコもある意味CO₂を排出しないラジオ放送局となる訳ですね。ラジオニセコは、冷暖房を地中熱ヒートポンプで行っており、今もエコな施設なのですが、このヒートポンプを動かすのに電気を一般家庭よりも使っているのも、それがゼロになるというのは、すごいことですよ？町長？

（ニセコ町片山町長）

素晴らしいです。

（ラジオニセコ宮川氏）

そして、それを証明するカーボン・オフセット証書を町長からいただいたのですが、これがまた素敵な額縁で、町長、これってもしかして・・・。

（ニセコ町片山町長）

そうですね。ニセコ町で手作り工房として頑張っておられる野坂さん（野坂木芸工房）のところで、このために作った特別な物ですので、大事に飾ってもらえれば有り難いなと思います。

（ラジオニセコ宮川氏）

ありがとうございます。野坂さんの作品、いいですよええ。いろんなお話を聞いてきましたが、是非町民の皆さんも、興味があるというリスナーの皆さんも、ラジオニセコ放送局内に野坂さんの額縁飾ってありますので、また取組に関して是非見に来ていただければと思います。

最後に皆様方から一言ずつ、リスナーやニセコ町の皆さんに、お願いしたいと思います。それでは、大丸株式会社竹森様お願いできますでしょうか？

（大丸（株）竹森サブマネージャー）

大丸株式会社はJ-クレジット、特にカーボン・オフセットという言葉も含めてなんですが、どんどん盛り上げていくことで、CO₂削減の一助になりたいと思っております。環境モデル都市であるニセコ町の皆様と一緒に勉強させていただきながらCO₂削減が実現していければと思います。当社、LEDなどの省エネのご提案から、先程のカーボン・オフセット商品を作るお手伝いまで、様々なエコなお手伝いをさせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

（ラジオニセコ宮川氏）

ありがとうございます。それでは、鶴雅観光開発株式会社黒滝様お願いいたします。

（鶴雅観光開発（株）黒滝常務）

私どももホテルとしてまだまだ勉強していかないとダメだと思っているんですが、ニセコ町の私どもの壱の抄というホテルについては、今温泉熱でロードヒーティングしていますという話をしたんですが、ニセコ町は森もありますし、水が素晴らしい、それから雪があるんです。これも上手く利用すると省エネ、CO₂の削減ができる訳ですよ。これも今研究段階にきていますので、何とか活用できるように頑張っ、皆様にご愛好いただけるホテルになろうと思っておりますので、今後とも一つよろしく願いいたします。

(ラジオニセコ宮川氏)

ありがとうございます。それでは、北電総合設計株式会社篠原様よろしく願いいたします。

(北電総合設計(株)篠原室長)

これからも機会がありましたら、ニセコ町さんのCO₂の排出削減活動のお手伝いをしていきたいと考えておりますし、J-クレジット制度をサポートするという立場からは、J-クレジット制度をもっと知りたいや、地球温暖化防止に繋がる設備導入などを行って、それをJ-クレジット制度に登録してJ-クレジットを作り出してみたいということなどにご関心がありましたら、北電総合設計までお気軽にご相談いただければと思います。

(ラジオニセコ宮川氏)

ありがとうございます。続きまして、北海道経済産業局浦田部長様、お願いいたします。

(北海道経済産業局浦田部長)

北海道経済産業局としては、ニセコ町が環境モデル都市として、省エネルギーやCO₂排出削減に国を上回る目標を掲げて取り組んでいらっしゃることを高く評価しています。

国際的なリゾート地として名高いニセコ町ですから、全国初の試みは、全国的にも、また全国的にも注目を集めるのではないかと思います。経済産業局としても、今回の取組をきっかけに、J-クレジットの創出や活用への関心が高まっていくことを期待していますし、そのようにしっかりPRしていきたいと思っています。

(ラジオニセコ宮川氏)

ありがとうございます。それでは、北海道環境財団柴田様、お願いします。

(公財)北海道環境財団柴田専務)

地球温暖化の防止のためには、一人一人の取組が大変重要でございます。それぞれでできることできないこと、個人個人であろうかと思いますが、J-クレジットとこの放送を聞きながら温暖化問題に関心を持っていただき、それぞれ自分ができるところから取組を進めていただければいいなあと思っております。

(ラジオニセコ宮川氏)

ありがとうございます。最後に片山町長お願いいたします。

(ニセコ町片山町長)

私たちの町は農業と観光を中心とする産業の町ですが、このライフスタイル自体が環境というものと密着して、私たちの暮らしがJ-クレジットとともに変わっていけばいいな、そのようないい町を作っていきたいなと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

(ラジオニセコ宮川氏)

ありがとうございます。皆様本当にありがとうございました。短い時間でしたが、そろそろお時間ということで、本当にありがとうございました。

本日のこの時間は、全国初の取組として、ニセコ中央倉庫群旧でんぷん工場にて行われました、J-クレジット贈呈式のお話、それを記念して、「ラジオニセコは聴くだけじゃない、CO2もゼロ」お届けしてまいりました。皆様本当にありがとうございました。

(全員)

ありがとうございました。

※放送終了